

2025 年度事業報告

2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで

1. 定時会員総会に関する事項

2025 年 6 月 13 日、ビジョンセンター東京 京橋 402 にて会員総会を開催し、

・2024 年度 事業報告の件

を報告し、

・第 1 号議案 2024 年度 貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに財産目録の承認の件

・第 2 号議案 理事及び監事の選任の件

・第 3 号議案 定款変更承認の件

を諮り、原案どおり承認された。

2. 理事会に関する事項

以下の日程で理事会を開催し、以下の決議・報告を行った。第 2 回のみ開催場所はビジョンセンター東京 京橋 402 であり、その他はアクチュアリー会大会議室で開催した。

開催回(開催日)	決議事項・報告事項
第 1 回 (2025 年 5 月 12 日)	・ 2024 年度事業報告の承認に関する件 ・ 2024 年度決算の承認に関する件 ・ 2025 年度定時会員総会に関する件 ・ 2025 年度委員長及び担当理事の承認に関する件 ・ Cookie Policy for ICA2026 の制定等に関する件 ・ 研究会員の入会に関する件 ・ 退会届の受付状況の報告
第 2 回 (2025 年 6 月 13 日)	・ 理事長の選定に関する件 ・ 副理事長の選定に関する件 ・ 参与の承認に関する件 ・ 公益法人制度改革に伴う諸規則の改定に関する件 ・ 研究会員の入会に関する件 ・ ICA2026 の進捗状況報告 ・ IAA サンパウロ会議概要報告 ・ 退会届の受付状況の報告
第 3 回 (2025 年 9 月 11 日)	・ ICA2026 における東京国際フォーラムの利用会場の拡張 ・ ICA2026 における wordly の利用 ・ ICA2026 ガラディナー会場に関する八芳園との契約締結に関する件 ・ アクチュアリー会・ソーシャルメディア運用ポリシー改正の件 ・ 名誉会員・顧問の承認の件 ・ 研究会員としての入会に関する件 ・ ICA2026 進捗状況の報告

	・ 理事長の職務執行状況の報告 ・ 2025 年度年次大会 ・ 若手・女性交流会の開催報告 ・ ASEA 講座概要 ・ 法人会員の名称変更の報告 ・ 退会届の受付状況の報告
第 4 回 (2025 年 12 月 12 日)	・ ICA2026 における Cookie Policy の改定 ・ アクチュアリー会・ソーシャルメディア運用ポリシー改正の件 ・ 評議員の推薦に関する件 ・ 事務局移転の件 ・ 研究会員としての入会に関する件 ・ 標準死亡率諮問委員会開催報告 ・ 2025 年度版 記載要領およびガイダンスの一般公開 ・ 2025 年度版 「保険負債の検証責任者」の適格性に関するフレームワーク ・ 2025 年度資格試験で発生した運営上の不備について ・ ICA2026 に係る進捗状況報告ならびに IAA との Regulations の改定 ・ 試験・教育制度の中長期的な見直しについて ・ 第 24 回 AAC 等 参加報告 ・ IAA マラケシュ会議 概要報告 ・ 会費見直しの検討状況の報告 ・ 退会届の受付状況の報告
第 5 回 (2026 年 3 月 2 日)	・ 「生命保険会社の保険計理人の実務基準」および「生命保険会社の保険計理人の実務基準」解説書の改正に関する件 ・ 「損害保険会社の保険計理人の実務基準」および「損害保険会社の保険計理人の実務基準」解説書の改正に関する件 ・ 2026 年度委員会等組織に関する件 ・ 2025 年度資格試験結果 ・ 2025 年度資格試験 理事長特別賞・理事長賞・成績優秀者賞の表彰に関する件 ・ 2026 年度予算編成方針及び事業計画(案)に関する件 ・ 試験・教育制度の中長期的な見直しに関する検討について ・ 試験・教育制度見直し準備 PT について ・ ICA2026 の進捗状況報告 ・ 客員の退任についての報告 ・ 法人会員の名称変更の報告 ・ 退会届の受付状況の報告
第 6 回 (2026 年 3 月 24 日)	・ 副理事長の選定・解職に関する件 ・ 2026 年度事業計画の承認に関する件

	・事務局移転に関する件 ・2026 年度予算等の承認に関する件 ・2025 年度正会員・準会員資格承認に関する件 ・2025 年度 CERA 資格者承認に関する件 ・資格試験に基づく入会・準会員資格承認に関する件 ・研究会員としての入会に関する件 ・法人会員としての入会に関する件 ・理事長の職務執行状況の報告 ・第 37 回評議員会開催報告 ・2026 年度委員会等の公募対象について ・2025 年度資格試験不備に関する再発防止策等について ・2025 年度 CERA 試験・研修実施結果について ・法人会員の名称変更について ・退会届の受付状況について
--	--

3. 会員の異動状況

本年度の会員の異動は、法人会員については入会 1 法人、退会 1 法人、個人会員については入会 338 名、退会 143 名があり、2026 年 3 月末の会員数は、下表のとおりとなった。

正会員	2,297 名
準会員	1,501
研究会員	2,118
小計	5,916
法人会員	109 法人
合計	6,025 名・法人

4. 事業報告

〔A. 試験関係〕

(A1) 資格試験の実施

2025 年 12 月 8 日～11 日の 4 日間、CBT (Computer Based Testing : コンピューターを利用した試験) 方式にて実施し、2026 年 2 月 16 日に結果発表を行った。

第 1 次試験の総受験科目数は 2,860 科目、うち合格科目数は 897 科目であり、その結果、新たな基礎科目全科目合格者数は 138 名であった。

第 1 次試験 (基礎科目)	数学	生保数理	損保数理	年金数理	会計・経済・ 投資理論
受験者数(人)	864	480	570	310	636
合格者数(人)	260	141	148	60	288
合格率	30.1%	29.4%	26.0%	19.4%	45.3%

第 2 次試験の総受験科目数は 1,054 科目、うち合格科目数は 197 科目であり、その結果、(基礎科目も含めた)新たな全科目合格者数は 96 名であった。

第2次試験 (専門科目)	生保1	生保2	損保1	損保2	年金1	年金2
受験者数(人)	339	356	135	107	58	59
合格者数(人)	60	63	24	23	11	16
合格率	17.7%	17.7%	17.8%	21.5%	19.0%	27.1%

2025年12月8日午前の試験科目である生保1にて、5会場の受験生の大半が使用するPCで、問題1(3)以降に進めない不具合が発生した。2026年1月20日に追試を実施し、大きなトラブルなく終了したため、2月16日に通常試験と合わせ合格発表を実施した。なお、他の会場・科目は正常に試験を終了した。

試験運営を委託しているプロメトリック社の原因究明に基づき、再発防止策を作成し、理事会に報告した。また、同内容を内閣府や金融庁にも提出した。

(A2) CERA 試験の実施

日本のCERA試験は、英国アクチュアリー会(Institute and Faculty of Actuaries; 以下、IFoA という)のSP9(Enterprise Risk Management, Specialist Principles)をベースとしている。

2025年度の試験は9月18日に、IFoAのオンライン試験プラットフォームを利用した形で実施した。オープnbック形式(持込可)からクローズドブック形式(持込不可)に変更となり、リモートによる試験監督下でのオンライン試験(個人PC環境)となった。

2026年1月15日に結果発表が行われ、受験者数は21名、うち合格者は5名(合格率23.8%)であった。2026年3月時点のCERA資格者数は145名となった。

[B. 教育・研修・研究発表関係]

(B1) アクチュアリー講座等の実施

アクチュアリー基礎・特論講座を、2025年5月8日から2025年11月10日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目	受講者数
基礎講座 (6グループ)	・確率論、統計論、確率論演習、統計論演習(91名) ・モデリング(90名) ・生保数理、生命表(107名) ・損保数理(119名) ・年金数理(104名) ・会計学、経済学、投資理論(110名)	左記の通り
特論講座 (7科目)	・危険選択論 ・社会保険論 ・人口論 ・保険監督法 ・年金実務法規 ・ファイナンス数理 ・リスクマネジメント論	31名

アクチュアリー追加演習講座を、2025 年 9 月 26 日から 2025 年 12 月 4 日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目	受講者数
追加演習講座 (4 科目)	・生保数理演習(26 名) ・損保数理演習(31 名) ・年金数理演習(15 名) ・モデリング演習(34 名)	左記の通り

ERM 関連の専門知識・技能を学ぶことを目的とした、アクチュアリー専門講座(ERM)を、2025 年 7 月 28 日から 2025 年 9 月 5 日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目	受講者数
専門講座 (ERM) (3 科目)	・ファイナンス数理(※) ・リスクマネジメント論(※) ・ERM ※特論講座と共通科目	14 名

アクチュアリーの業務領域に有益なデータサイエンス関連の専門知識・技能を、PC を用いた実習により習得することを目的とした、アクチュアリー専門講座(データサイエンス)を 2025 年 11 月 18 日から 2026 年 3 月 14 日の期間で実施した。受講状況は次の通り。

	内容	受講者数
専門講座 (データサイエンス)	【前編】 【後編】 ・R の導入と簡単な回帰モデル ・予測モデリングの基本手順 ・線形回帰モデル ・探索的データ解析(EDA) ・主成分分析 ・予測モデリング用のモデル例 ・クラスタリング・時系列解析 ・モデルの選択・評価の方法 ・決定木 ・回帰問題での実践 ・一般化線形モデル 1 ・分類問題での実践 ・一般化加法モデル 2	6 名

(※) 前編の各講義の内容は前半・後半に分けられ、前半の授業は事前に録画された講義を視聴するオンデマンド講義とした。

＜受講生の利便性を考慮した対応＞

オンライン会議システムを用いて開催した。また、講義に参加できなかった受講者向けに録画動画の配信(配信期間は 2 週間)を実施した。

(B2) 日本アクチュアリー会年次大会

2025 年 11 月 6 日、7 日の 2 日間、1 日目は経団連会館にて対面形式で、2 日目は対面(ステーションコンファレンス東京 サピアタワー)とオンラインを併用したハイブリッド形式で年次大会を開催した。なお、当日の様子は録画し、大会終了後 e-ラーニングシステムで視聴可能とした。プログラムは以下の通り。

1 大会 1 日目

- ・ 開会式(理事長挨拶、祝辞)
- ・ 特別講演

題目	講演者
ゲノム編集がもたらす未来社会 ～私たちの暮らし・医療・食がどう変わるのか～	山本 卓 氏(広島大学ゲノム編集イノベーションセンター センター長・教授)
天気の人、天達と考える気候変動と地球の未来	天達 武史 氏(気象予報士、防災士)
脳と AI の未来	池谷 裕二 氏(東京大学薬学部 教授)

- 2 ICA2026 参加登録受付開始セレモニー Bozena Hinton 氏(国際アクチュアリー会 会長)、庄子 浩(ICA2026 組織委員長)
- 3 海外来賓講演「The Future of Actuarial Practice: Global Collaboration, AI Innovation, and ICA 2026」Bozena Hinton 氏(国際アクチュアリー会 会長)、「Actuaries and Public Policy」Mark Saunders 氏(香港アクチュアリー会 次期会長)

4 大会 2 日目

全体で、論文発表：17 編、プレゼンテーション：12 セッション、パネルディスカッション：3 セッション、英語によるディスカッション・フォーラム：12 セッションが行われた。

(B3) IT 研究大会の開催

2026 年 2 月 10 日、日本橋高島屋三井ビルディングにおいて、第 65 回 IT 研究大会を対面形式で開催した。なお、当日の様子は録画し、大会終了後 e-ラーニングシステムで視聴可能とした。

本大会の中で、次の特別講演が行われた。

題目	講演者
AI エージェントによる業務変革	吉田 順 氏 (株式会社日立製作所 Generative AI センター本部長兼デジタルシステム&サービスセクター Chief AI Transformation Officer)

技術グループによる新技術紹介(ブース展示)や IT 研究会第 1 グループから第 5 グループによる活動報告が行われた。

(B4) 例会の開催

2025 年度は次の例会を開催した。詳細は次のとおり。

実施日程 [テーマ]	題目	講演者
第 1 回 (2025 年 5 月 20 日)	なぜ過去を平準化するのか?パンデミック死亡率の経験を長寿リスク評価へ活用する方法	Roshan Tajapra 氏(SCOR 再保険)

[生命保険]	(第 1 回オンデマンド配信) 6 月 3 日～6 月 16 日	
第 2 回 (2025 年 9 月 30 日) [年金・退給制度]	米国における年金のリスク移転市場: 保険会社のプライシングに関する留意点	Ted Law 氏 (RGA 再保険) Mellissa Lim 氏 (RGA 再保険)
	(第 2 回オンデマンド配信) 10 月 17 日～10 月 30 日	
第 3 回 (2025 年 10 月 15 日) [その他]	第 2 次トランプ政権下での日米金利・為替市場見通しと投資戦略	井上 健太氏 (Ph. D. 三菱UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社 シニア債券ストラテジスト)
	(第 3 回オンデマンド配信) 10 月 29 日～11 月 11 日	
第 4 回 (2025 年 11 月 27 日) [年金・退給制度]	一般化加法モデルを用いた脱退率推定の改善 ※日本年金数理人会との共催	小田 直人 (三井住友信託銀行) 車谷 優樹 (大阪大学数理データ科学教育研究センター 招聘研究員・株式会社りそな銀行)
	(第 4 回オンデマンド配信) 12 月 9 日～12 月 22 日	
第 5 回 (2025 年 12 月 19 日) [プロフェッショナリズム]	※プロフェッショナリズム研修 (継続教育) との共同開催 (B9 参照)	
	(第 5 回オンデマンド配信) 1 月 9 日～1 月 22 日	
第 6 回 (2026 年 2 月 26 日) [生命保険]	生命保険における行動経済学	Dr. Kohar Kissoyan 氏 (Gen Re ライフヘルス、グローバルアンダーライティングおよび R&D、ドイツ・ケルン) Sarah Salem 氏 (Gen Re ライフヘルス、グローバル R&D、リード - デジタルソリューション、ドイツ・ケルン)
	(第 6 回オンデマンド配信) 3 月 12 日～3 月 25 日	
第 7 回 (2026 年 3 月 6 日) [医療]	忘れられる権利 (RTBF : Right to Be Forgotten) 重大疾病 (CI : Critical Illness) 保険の再構築 — トレンド、中国からのインサイト、日本への示唆に関するオペレーション視点からの考察	Susanne Buchholz 氏 (ハノーバー再保険 チーフ・メディカル・アンダーライター) Ivan Yang 氏 (ハノーバー再保険上海支店 チーフ・メディカル・コンサルタント)
	(第 7 回オンデマンド配信) 3 月 18 日～3 月 31 日	
第 8 回 (2026 年 3 月 26 日) [生命保険]	韓国生命保険市場における最新の商品動向	ミンヒョク・リー氏 (プライシング・アクチュアリー／アシスタント・バイス・プレジデント スイス・リー・アジア・プライベート・リミテッド 韓国支店 生命・医療再保険部門)
	(第 8 回オンデマンド配信) 4 月 9 日～4 月 22 日	

＜会員の利便性を考慮した対応＞

オンライン会議システムを用いて開催し、一部の例会では対面を併用したハイブリッド形式で開催した。また、当日参加できなかった会員向けに録画動画の配信を実施した。

(B5) 関西委員会分科会発表会の開催

2026 年 3 月 19 日に対面形式で開催した。

実施日程	題目	講演者
(2026 年 3 月 19 日) [生保・年金・リスク 管理]	今年度の分科会活動報告	保険計理分科会 年金分科会 ERM 分科会

(B6) ムーンライトセミナーの開催

2025 年 9 月から 2026 年 2 月にかけて次の 5 つのテーマでそれぞれ複数回開催し、回ごとに対面またはオンライン形式とした。

題目	講演者
数学を用いたモデリングの広範な視点とその課題	Olivier Le Courtois 教授 (emlyon business school)
世界の診療報酬制度のこと、楽しく勉強してみませんか？	溝口 博重氏(メディカル・ データ・ビジョン株式会社)
新たな IML 手法「MID」を用いて機械学習モデルを読み解く	岩沢 宏和 データサイエンス関連基礎 調査部会委員
複雑化した市場での金融政策の正常化の影響と今後の注目点	市川 達夫氏(合同会社 89 8 キャピタル)
損害保険分野における Assumption 設定について考える	セミナー部会委員

(B7) 関西セミナーの開催

2026 年 2 月 13 日に対面形式で開催した。

題目	講演者
・死亡リスクの将来の所要資本に対する適切なリスクドライバについての考察 ・人口減少による生命保険新契約の減少リスクの予測手法 ・資産集約型再保険に関するリスクについての考察 ・状態空間モデルの枠組みを利用した死亡率モデルの発展について ・気候変動による生命保険会社への影響についての考察	京都大学大学院 理学研究科 数学・数理解析専攻 数学系 保険数学ゼミ生

(B8) e-ラーニングの充実

e-ラーニングに次のコンテンツを公開した。

- ・【プロ単位】2024 年度年次大会「経済価値ベース新資本規制に求められるプロフェッショナルリズム」
- ・2024 年度年次大会「令和 6 年財政検証について」
- ・2024 年度年次大会「経済価値ベースのソルベンシー規制の原点に立ち返る」
- ・2023 年度第 9 回例会「行動科学に基づくアンダーライティングにおける質問の再設計」
- ・2023 年度第 10 回例会「コロナ禍の死亡率の変化」
- ・2023 年度第 11 回例会「Early stages of Alzheimer's dementia -最新情報」
- ・2024 年度第 1 回例会「AI サミット：アクチュアリー将来と AI」
- ・2024 年度第 2 回例会「確実な将来へ：長寿リスクとそのリスク管理についての考察」
- ・2024 年度第 3 回例会「令和 6 (2024) 年公的年金財政検証について」
- ・2024 年度第 4 回例会「パーキンソン病 - 診断とモニタリングの課題」
- ・【プロ単位】アクチュアリー行動規範とアクチュアリー行動基準
- ・2024 年度 Open Discussion Forum①
- ・2024 年度 Open Discussion Forum②
- ・【プロ単位】2024 年度プロフェッショナルリズム研修(継続教育)・第 5 回例会「AI リスクとガバナンス」
- ・2023 年度第 8 回例会「日米金利・金融市場見通し：24 年大統領選挙、FRB 利下げ開始・日銀マイナス金利解除後の政策展望」
- ・「保険負債の検証レポート」 記載要領・記載要領の背景
- ・保険負債等の評価・検証に関するガイダンス
- ・【プロ単位】「保険負債の検証責任者」の適格性に関するフレームワーク(案)の公表について
- ・ハル・ホワイト・モデルとツリー・アプローチ
- ・IAA リスクブック第 2 章(アクチュアリー機能)(2023 年 3 月版)
- ・【プロ単位】IAA リスクブック第 3 章(専門職基準)(2023 年 5 月版)
- ・IAA リスクブック第 16 章(比例性、重要性および類似の用語)(2023 年 4 月版)

(B9) プロフェッショナルリズム研修の実施

- 1 プロフェッショナルリズム研修(継続教育)を、2025 年 12 月 19 日に次の内容で実施した。
(第 5 回オンデマンド配信：2026 年 1 月 9 日～1 月 22 日)

題目	講演者
・コンダクトリスクと企業カルチャー	東 浩 氏(田辺総合法律事務所)

- 2 プロフェッショナルリズム研修(初期教育)を、2026 年 3 月 3 日に対面形式で実施した。この研修は正会員資格の認定要件である。

題目	講演者
アクチュアリーとプロフェッショナルリズム概論	プロフェッショナルリズム教育部会 委員 浜田 淳一

日本アクチュアリー会行動規範	プロフェッショナリズム教育部会 副部長 宮本 淳
生保のプロフェッショナリズム	実務基準部会(生保) 部長 穴田 祐史
損保のプロフェッショナリズム	実務基準部会(損保) 部長 古屋 正人
年金のプロフェッショナリズム	プロフェッショナリズム教育部会 委員 日下部 健児
グループワーク(ケーススタディ※)	プロフェッショナリズム教育部会 部長 金澤 巖

※アクチュアリーに求められる「コミュニケーション」に関する研修を含む。

(B10) 特定分野研修(初期教育)の実施

特定分野研修(初期教育)を2025年9月4日、18日および2026年3月12日、17日に実施した。なお、この研修は正会員資格の認定要件である。

題目	講演者
・金融システム	高橋 智彦 氏(拓殖大学教授)
・アクチュアリアル・リスクマネジメント	藤澤 陽介(住友生命)
・データとシステム	岩沢 宏和(早稲田大学大学院客員教授)

(B11) アクチュアリー海外研修の実施

生保・年金、損保をテーマとする2班に分かれて、第10回アクチュアリー海外研修を実施した。

生保・年金班はSOA(米国の生保・年金分野を中心としたアクチュアリー会)の年次大会への参加(プレゼンテーション発表含む)を中心に、2025年11月1日から11月12日の期間で研修を行った。

損保班はCAS(米国の損保分野を中心としたアクチュアリー会)への参加(プレゼンテーション発表含む)を中心に、2025年11月8日から11月19日の期間で研修を行った。

参加者は、生保・年金班46名、損保班8名であった。

(B12) CERAに関する研修等の実施

2026年2月7日、CERA試験の合格者を対象に、ERMに関する日本特有の状況やERMのケーススタディについて講義やグループ学習を実施した。この研修はCERA資格の認定要件であり、受講修了者は5名であった。

(B13) 研究集会の実施

テーマに沿った先端的な研究を題材に会員と研究者・大学院生などが討論し論文の深掘を行うことを目的とし、2026 年 3 月 5 日に実施した。

〔C. 調査・研究活動〕

(C1) 標準死亡率諮問委員会の開催

第 31 回標準死亡率諮問委員会が、2025 年 10 月 29 日に開催され、「生保標準生命表の適用の適切性」について了承された。

(C2) 経済価値ベースのソルベンシー規制・会計基準・実務基準等への対応

2025 年 7 月に金融庁から公布された法令や、経済価値ベースのソルベンシー規制に関する Q&A を踏まえ、2025 年 12 月に以下を公表した。

- ・ 保険負債の検証レポートの記載要領および記載要領の背景
- ・ 保険負債等の評価・検証に関するガイダンス
- ・ 「保険負債の検証責任者」の適格性に関するフレームワーク

また、2026 年 3 月 2 日の理事会にて以下の実務基準等の改正を決議し、金融庁の認定を受けた。

- ・ 生命保険会社の保険計理人の実務基準
- ・ 生命保険会社の保険計理人の実務基準解説書
- ・ 損害保険会社の保険計理人の実務基準
- ・ 損害保険会社の保険計理人の実務基準解説書

(C3) 国際会計基準・保険監督の国際基準への対応

国際会計基準及び保険監督の国際基準について、本会は、IAA の委員会活動への積極的な参画を通じて対応した。IAA は、国際的なアクチュアリー専門職団体として、IASB (国際会計基準審議会) 及び IAIS (保険監督者国際機構) において行われている検討に関して、パートナーシップ契約等を締結し、アクチュアリアルな事項に関し助言等を行っている。

(C4) IAA 教育シラバス改訂への対応/試験・教育制度の見直しに関する対応

- 1 2024 年 3 月の本会教育シラバスの制定 (2025 年 4 月発効) を受けて、試験・研修範囲とシラバスの差異、現状の課題、外部環境の変化等を踏まえ、今日的な見直しの検討を実施した。
- 2 教育シラバスが求める知識・技能の履修をより確実なものとし、一方で、求められる知識・技能の高度化・多様化・環境変化等に対応した今日的な制度とすべく、2027 年度より試験科目の変更・組替等による正会員要件の見直しを検討した。

(C5) AI・データサイエンスに関する取り組み

- 1 データサイエンス関連基礎調査部会では、データサイエンスの技術がアクチュアリーの実

務にどう生かせるかという観点から、予測モデルや解釈可能な機械学習等について調査・研究を行った。

- 2 また、AI 調査関連 WG では、IAA の AI に関する活動への対応方針の検討、および IAA が設置するタスクフォースに本会会員を派遣し、調査・研究や文書化に参画した。
- 3 一般社団法人情報処理学会と AI を含む IT 分野での協業については、今年度は情報処理学会の学会誌等に掲載する論文として、IT 優秀論文を推薦したほか、情報処理学会が主催するセミナーに講師を派遣した。

(C6) 気候変動リスク・サステナビリティに関する取り組み

- 1 気候変動リスク・サステナビリティ研究会において、数理事項を中心にテーマを設定し、情報収集・調査・研究を行っている。
- 2 年次大会において、それまでに行った調査・研究の現状を発表した。
- 3 「予備的報告書」を取りまとめており、今後、一般公表する予定としている。

(C7) 委員会等の活動

各委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチームにおいては、年度始に定めた目的・ミッションに基づく調査・研究などの活動を行い、その活動状況等を一般向けホームページに掲載するとともに、調査・研究の成果としてまとめたものについては、会員専用ホームページ・会報別冊等を通じて公表した。

〔D. 意見表明〕

(D1) IAA のカウンスルでの投票(電子投票を含む)

- 1 2025 年 5 月、IAA カウンスル・ミーティング(サンパウロ)において、IAA の財務方針、指名委員会委員、教育ガイドライン、教育シラバスの改定などの議案に賛成投票を行った。
- 2 2025 年 11 月、IAA カウンスル・ミーティング(マラケシュ)において、セクション規則の改正、ISAP8(IFRS S2)の承認、新会長(Mike Lombardi 氏)および新次期会長(Maximilian Happacher 氏)の承認、監査人の選任などの議案に賛成投票を行った。

〔E. 国際関係〕

(E1) IAA 活動

IAA に委員を派遣し、委員会活動等に積極的に参画している。

＜委員会等への派遣メンバー＞

委員会等	派遣者
Strategic Planning Committee	吉村 雅明 (個人)※オブザーバー
Advance Committee	吉村 雅明 (個人)
Membership Assistance	関根 賢二 (ウィル・プラネット)※委員長

Committee	
Professionalism Committee	田中 浩一 (明治安田生命)
Education Committee	藤澤 陽介 (住友生命)
Insurance Accounting Committee	青木 保繁 (住友生命)
Insurance Regulation Committee	鹿内 一寛 (第一生命ホールディングス)
AI Task Force	山田 龍太郎 (MS&AD インシュアランスグループホールディングス) 藤澤 陽介 (住友生命) 柴田 大樹 (タワーズワトソン)
Pandemics Task Force	勝野 健太郎 (住友生命)
ISAP8 Task Force	関口 健太郎 (エーオングループジャパン)

<フォーラムへの派遣メンバー>

フォーラム	派遣者
Pensions, Benefits and Social Security Forum	関根 賢二 (ウィル・プラネット) 清水 信広 (全国生協連)※オブザーバー 臼田 健人 (第一生命)※オブザーバー
Social Security Subgroup	清水 信広 (全国生協連) 日下部 健児 (みずほリサーチ&テクノロジーズ)※オブザーバー
Enterprise & Financial Risk Forum	藤澤 陽介 (住友生命)※委員長 長 信一郎 (明治安田生命)※オブザーバー 甲斐 崇 (富国生命)※オブザーバー
General Insurance Forum	山田 龍太郎 (MS&AD インシュアランスグループホールディングス)※委員長 塩島 薫 (あいおいニッセイ同和損保)※オブザーバー
Data Analytics Virtual Forum	谷川 正磨 (明治安田生命) 山田 龍太郎 (MS&AD インシュアランスグループホールディングス)※オブザーバー 広瀬 航 (富国生命)※オブザーバー
Inclusive Insurance Virtual Forum	関根 賢二 (ウィル・プラネット)
Mortality Virtual Forum	反橋 拓郎 (ハノーバー再保険) 横井 裕明 (朝日生命)※オブザーバー 長島 崇行 (太陽生命)※オブザーバー

＜セクションへの派遣メンバー＞

セクション	派遣者
AFIR/ERM	砂本 直樹（富国生命） 藤澤 陽介（住友生命） 横山 大河（みずほ信託）
ASTIN	海老崎 美由紀（デロイトトーマツ）
IAALS（LIFE）	反橋 拓朗（ハノーバー再保険）
PBSS	日下部 健児（みずほリサーチ&テクノロジーズ）

（E2）第 50 回 東アジア・アクチュアリー講座（ASEA）の開催

2025 年 9 月 8 日から 12 日までの 5 日間にわたり、東アジアを中心とする 15 の地域から 26 名の参加を得て、本会会員 4 名を加え、アクチュアリーが関わる日本の諸制度の状況等の講義とディスカッションを実施した。

（E3）国際会議等への派遣等

対面とオンラインのハイブリッド形式で開催されている。

日程	派遣先	派遣者
5 月 18 日～22 日	JoCo2025 (ブラジル・サンパウロ)	海老崎 美由紀(デロイト トーマツ リスクアドバイザー)、横山 大河(みずほ第一フィナンシャル)、反橋 拓朗(ハノーバー再保険)、日下部 健児(みずほリサーチ)、藤田 卓(Akur8)
5 月 21 日～25 日	IAA 会議 (ブラジル・サンパウロ)	渡部 仁(日本生命)、砂本 直樹(富国生命)、吉村 雅明(個人)、清水 信広(全国生協連)、重原 正明(第一生命)、青木 保繁(住友生命)、田中 浩一(明治安田生命)、山田 龍太郎(三井住友海上)、藤澤 陽介(住友生命)、関根 賢二(ウィル・プラネット)、日浦 優吾(PwC)、芹澤 寛(事務局長)
8 月 3 日～7 日	WRIEC2025 (カナダ・バンクーバー)	谷口 豊(ジブラルタ生命)
11 月 11 日～14 日	AAC2025 (タイ・バンコク)	谷川 正磨(明治安田)、黒田 暁(明治安田)、上田 泰史(明治安田)、芹澤 寛(事務局長)
11 月 20 日～23 日	IAA2025 (モロッコ・マラケシュ)	渡部 仁(日本生命)、砂本 直樹(富国生命)、吉村 雅明(個人)、重原 正明(第一生命)、関根 賢二(ウィル・プラネット)、日浦 優吾(PwC)、芹澤 寛(事務局長)

(E4) ICA2026 東京大会に向けた取り組み

- 1 スポンサー募集は、当初目標達成後も引き続き推進するとともに、LinkedIn 等の SNS を活用したプロモーション活動や、各種レセプション会場の選定を実施した。
- 2 11 月に参加登録を開始し、将来の裾野拡大に向けた国内学生への無料聴講施策の決定や、大会参加に伴う CPD 単位の付与基準の整理を行った。
- 3 プレナリーセッションの検討を進めるとともに、基調講演(Closing Keynote Speaker)として野口聡一氏を正式に決定するなど、プログラムの構築を図った。
- 4 アブストラクトの募集では過去の大会を上回る 637 件の提出があり、採択通知の準備を進めるとともに、発表機会拡充のための会場拡張を決定したほか、法人会員向けの団体申込など参加登録に係る事務手続きの準備を進めた。

(E5) 米国アクチュアリー会(SOA)との連携

IAA サンパウロ会議の期間中、ICA2026 東京大会の協力依頼、若手・女性エンゲージメント、予測分析(Predictive Analytics)教育に関する協業をテーマに情報・意見交換を行った。

(E6) 豪州アクチュアリー会(AIA)との連携

IAA サンパウロ会議の期間中、若手エンゲージメント運営、女性会員比率向上取組、ICA2026 東京協力要請をテーマに情報・意見交換を行った。

(E7) 仏アクチュアリー会(IA)との連携

IAA マラケシュ会議の期間中、若手アクチュアリー取組(YAI)や IA 組織体制について、情報・意見交換を行った。

[F. 評議員会]

- (F1) 2026 年 3 月 4 日に第 37 回評議員会を開催し、「2025 年度事業計画・2026 年度事業計画(案)」「2025 年度事業活動実績・2026 年度の取組みの概要」、および「理工系女子人材確保に向けた外部プラットフォームの各種活動への参画・協賛」について審議した。

[G. 学術活動]

- (G1) 京都大学より保険数理及び年金数理及び年金制度設計論の講師派遣の依頼があり、浅野 淳(住友生命)、齊藤 弘行(住友生命)、中村 吉男(住友生命)、喜多 俊也(りそな銀行)、辻 芳彦(大同生命)、山内 宗幸(日本生命)、柳戸 裕二(日本生命)および金澤 幸始(日本生命)を派遣した。
- (G2) 大阪大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、佐々田 明彦(住友生命)、渡辺 有介(大同生命)および柳戸 裕二(日本生命)を派遣した。
- (G3) 神戸大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、中川 大輔(住友生命)を派遣した。

(G4) 早稲田大学より生保数理、年金数理及び損害保険の理論と実務、プロフェッショナルリズムの講師派遣の依頼があり、若杉 英樹(明治安田生命)、田中 浩一(明治安田生命)、浜田 淳一(明治安田生命)、荒井 昭(明治安田生命)、越後谷 斉一(明治安田生命)、関口 健太郎(エーオングループジャパン)、藤澤 陽介(住友生命)、塩島 薫(あいおいニッセイ同和損害)、青木 拓郎(損害保険ジャパン)、堀田 周平(三井住友海上)、加藤 奈々(個人)、佐野 誠一郎(共栄火災海上)、藤田 卓(Akur8)、松森 至宏(損害保険ジャパン)、市川 太之(東京海上日動火災)、實石 晃洋(PwC Japan 有限責任監査法人)および西 一郎(東京海上日動火災)を派遣した。

(G5) 2025 年 6 月 5 日、関西大学システム理工学部数学科において、学部 3 回生を対象にアクチュアリーについて紹介するキャリアガイダンスが開催されることとなり、学術活動の一環として、滑川 敬規(関西委員会)を講師として派遣した。

[H. 表彰関係]

(H1) 2024 年度資格試験理事長特別賞及び成績優秀者

①2025 年 6 月 13 日、理事長特別賞の授与及び成績優秀者の表彰を行った。

・理事長特別賞

本郷 建(明治安田生命)

・科目別成績優秀者

数学 1 名、生保数理 6 名、損保数理 1 名、年金数理 14 名、会計・経済・投資理論 1 名、
生保 1 1 名、生保 2 1 名、損保 2 1 名、年金 2 1 名

(H2) 優秀論文の表彰

1 2025 年度アクチュアリー会優秀論文について、学術委員会による審査の結果、同委員会からの推薦はしないこととなり、当該論文は該当がなかった。

2 2026 年 2 月 10 日、IT 研究大会において、次の IT 関係優秀論文を表彰した。

「保険システムへの新技術適用」

(IT 研究会第 3 グループ)

「生命保険業界におけるレガシーシステムの課題とクラウドネイティブ化への移行戦略」

(IT 研究会第 4 グループ)

[I. 広報・出版活動]

(I1) 情報提供機能の充実

① 2025 年 9 月 3 日と 2026 年 2 月 1 日に、学生を主な対象としたアクチュアリーセミナーをオンライン形式で開催した。

② 2025 年 5 月～11 月にかけて、各大学に訪問し、学部生・院生を対象としたアクチュアリーの紹介セミナーを実施した。詳細は以下の通り。

大学名	開催日	派遣者
-----	-----	-----

早稲田	5月17日	大塚 忠義(教授)、芹澤 寛(事務局長)、佐藤 政洋(東京海上)、岡野 哲也(明治安田生命)、井上 佑紀(三井住友海上)
東北	6月9日	伊藤 翔太(富国生命)、末永 義博(第一生命)、酒井 良洋(損保ジャパン)、遠田 健(三菱UFJ信託)
お茶の水女子	6月26日	嶋津 直之(あいおいニッセイ同和損保)、湯浅 文(明治安田生命)、藤田 佳子(りそな銀行)
慶應義塾	7月1日	浜田 将真(損保ジャパン)、青木 一真(明治安田生命)、縣 裕一郎(損保ジャパン)、今中 亮介(三菱UFJ信託)
京都	7月3日	芹澤 寛(事務局長)、山本 周平(住友生命)、西岡 謙太(損保ジャパン)、今井 健二(日本生命)、高橋 諒弥(大同生命)
神戸	7月4日	和田 亮彦(りそな銀行)、中川 大輔(住友生命)、川口 大輔(あいおいニッセイ同和損保)、奥田 健二(日本生命)
東京	7月7日	岡田 卓也(日本生命)、芹澤 寛(事務局長)、北原 悠(日本生命)、岩山 英之(東京海上)、佐伯 俊輔(三井住友信託)
東京科学	7月9日	白土 和志(三菱UFJ信託)、滑川 敬規(住友生命)、住田 翔星(三井住友海上)、中田 英佑(みずほ信託)
一橋	7月10日	堀田 周平(三井住友海上)、村手 悠帆(第一生命)、矢作 麻希子(住友生命)
大阪	7月15日	和田 亮彦(りそな銀行)、芹澤 寛(事務局長)、青木 保繁(住友生命)、東 洸平(三井住友海上)
名古屋	11月21日	新田 正吾(第一生命)、浜田 将真(損保ジャパン)、中原 慎介(明治安田生命)、小島 健一郎(あいおいニッセイ同和損保)、附田 舞(第一生命)
東京理科	11月26日	瀧元 惇司(明治安田生命)、木村 健一(富国生命)、須藤 孝浩(あいおいニッセイ同和損保)、奥津 聡介(RNA Analytics)

- ③2025年7月12日、川越女子高校において、学生及び高校の数学教員を対象とした講演会が開催され、芹澤 寛(事務局長)、井出 瑠美香(明治安田生命)を派遣した。
- ④2025年10月に、一般向けホームページの「合格者の声」について、2025年度版としてリニューアル(紹介メンバーの入替え)を行った。

(12) 会報等の刊行

1 会報

号数	題目
----	----

第 78 号	・ コホートモデルによる高齢死亡率の将来予測 ・ 新型コロナウイルス感染症を踏まえた罹患リスクに関する一考察 ・ クレーム分析の因果探索的アプローチ ・ 外貨建保険の収益・リスク管理について ・ 金融市場の平均回帰性を踏まえたリスク評価に係る検討 ・ 深層生成モデルの時系列予測への応用 ・ 経済価値ベースの指標と市場からの評価に関する一考察 ・ 保険会社における経済価値指標に関する一考察 ・ 公的介護保険の要介護認定にリンクする要介護発生率について ・ 死亡率観測値の変動構造を解析するための新たな回帰モデル — 均一分散化乗数と補二重対数変換の活用 —
--------	--

2 会報別冊

号数	題目
第 302 号	第 64 回 IT 研究大会報告 ・ 特別講演「一保険業界における効率化—AI 活用の課題と可能性」(PwC コンサルティング合同会社 保険インダストリー事業部 上席執行役員 パートナー 高 盛華 氏) ・ 保険会社における生成 AI の活用(調査・研究グループ 1) ・ DX をはじめとする IT 投資コストの評価に関する研究(調査・研究グループ 2) ・ 保険システムへの新技術の適用(調査・研究グループ 3) ・ 生命保険業界におけるレガシーシステムの課題とクラウドネイティブ化への移行戦略(調査・研究グループ 4) ・ 100 年先でも大丈夫！ ～保険業界を支える IT 基盤戦略～(調査・研究グループ 5)
第 303 号	気候関連リスクに関するシナリオの資産ポートフォリオへの適用＜2022 年 4 月＞ 要旨 1. はじめに 2. 個別資産の選定：「ボトムアップ・アプローチ」によるポートフォリオ構築 3. ポートフォリオ分析：「気候関連シナリオのマクロ経済への影響「トップダウン」 4. さまざまな資産クラスに関する考察 5. ポートフォリオ・レベルでのリスク尺度と指標 6. 代表的なポートフォリオと関連事例 7. IAA 気候リスクタスクフォースの次のステップ

	参考文献
第 304 号	第 1 回 アクチュアリー国内研修報告 第 1 章 概要 1. 部会長による総括 2. 日程 3. 参加者 第 2 章 研修当日の議事録 1. 開会のご挨拶 2. 特別講演 3. 分科会①研究発表 4. 分科会②研究発表 5. 分科会③研究発表 6. 分科会④研究発表 7. 分科会⑤研究発表 8. 講評・表彰 第 3 章 各種資料
第 305 号	第 10 回アクチュアリー海外研修報告 ・ 第 1 編 生保・年金組報告 ・ 第 2 編 損保組報告 ・ Appendix A SOA プレゼン資料 ・ Appendix B CAS プレゼン資料 ・ Appendix C 生保・年金組アンケート研修後アンケート ・ Appendix D 損保組アンケート
第 306 号	米国アクチュアリー協会(SOA)の「LLM の実用化」＜国際関係委員会＞ ・ エグゼクティブサマリー 1. はじめに 2. LLM 提供企業の状況 3. LLM モデル、ベンチマーク、比較 4. オープン型とクローズド型 LLM 5 LLM の利用と導入 6 LLM の活用 7 アクチュアリー業務における LLM のリスクとガバナンス 8 謝辞 付録 A：用語集
第 307 号	ヘッジングとリスク管理＜国際関係委員会＞ 1. はじめに 2. エグゼクティブサマリー 3. リスク管理ガバナンス構造

	4. 死亡リスク管理 5. 再保険 6. 死亡以外の保険リスク 7. ヘッジとヘッジ会計
第 308 号	気候関連情報の開示とリスク管理：基準と先進的な実務＜2022 年 10 月＞ 要旨 はじめに 1. 気候関連財務情報開示タスクフォース 2. その他の主要な気候関連情報開示の取り組み 3. 気候関連情報開示に関する主な各国の規制の選択 4. 統合的リスク管理における気候関連リスク 5. 気候関連情報開示における先進的な実務例 6. 結論 7. IAA 気候リスクタスクフォースの今後の取り組み
第 309 号	第 65 回 IT 研究大会報告 ・ 特別講演「AI エージェントによる業務変革」 (株式会社日立製作所 Generative AI センター本部長兼デジタルシステム &サービスセクターChief AI Transformation Officer 吉田 順) ・ 保険業界における IT 人財のあり方に関する研究(調査・研究グループ 1) ・ 保険ビジネスにおける AI 活用について(調査・研究グループ 2) ・ システム開発の高速化に関する研究(調査・研究グループ 3) ・ VUCA 時代に生命保険会社に取り組むべきサイバーレジリエンスについて (調査・研究グループ 4) ・ そこに「未来」はあるのか？～見守り×ゲームで支える若年層の人生～ (調査・研究グループ 5)

3 アクチュアリージャーナル

号数	題目
第 131 号	・ 翻訳 バミューダにおける PE 保険会社の監督と規制 ・ 報告 2024 年度ムーンライトセミナー ・ 翻訳 ASTIN Bulletin Abstracts ・ 報告 2024 年度 AFIR 関連研究会活動報告：ICA2023 の論文輪読 ・ 報告 2024 年度 関西委員会分科会活動報告 ・ 2024 年度 新 CERA 資格者決定 ・ 2024 年度 継続教育制度履修目標達成者 ・ 2024 年度資格試験合格者決定 ・ 委員会活動紹介(ICA2026 組織委員会) ・ アクチュアリーリレートーク(第 32 回)

第 132 号	・ 2025 年度 委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチーム名簿 ・ 2024 年度継続教育の履修状況について ・ 委員会活動紹介(国際基準対策委員会) ・ アクチュアリーリレートーク(第 33 回)
第 133 号	・ WRIEC2025 での発表報告—ICA2026 へ向けて ・ Using Behavioral Science to Redesign Life Insurance Application Forms ・ 報告 若手・女性会員による講演会・交流会の実施 ・ 委員会活動紹介(生保委員会) ・ 連載 アクチュアリーリレートーク(第 34 回)
第 134 号	・ 報告 2025 年度 アクチュアリーセミナー ・ 翻訳 バミューダにおける資産集約型再保険に関する洞察と考察 ・ 翻訳 保険事業体によるリスク軽減手法の利用に関する意見書 付録 I : 大量解約再保険 ・ 気候変動・サステナビリティへの取組について(予備報告書) ・ 委員会活動紹介(損保委員会) ・ 連載 アクチュアリーリレートーク(第 35 回)
特別号 ＜リスクと 保険第 22 号＞	・ 講演「ランダムフォレストの理論と最近の展開」 「生成 AI の進展と金融領域の活用可能性」 ・ 論文「一般化加法モデルを用いた脱退率推定の改善」 ・ 事例研究「在院期間分布の補間・補外の一手法とその応用」

4 2025 年度資格試験問題集

5 2025 年度年次大会報告集

(I3) 広報誌の改訂

2025 年 5 月、個人会員数の業態別内訳・年次別推移および法人会員一覧の更新等の定例対応のほか、「資格試験の概要」および「アクチュアリーセミナー」に関する記載内容の見直しを行った。

〔J. その他〕

(J1) 中長期的な事業戦略の見直し

中長期的な事業戦略のさらなる活用に向けて、外部環境の変化を踏まえ、中長期的な視点で会・委員会等の活動が推進されるように、より具体化した取組内容を設定した。また、単年度計画の策定時に中長期的な事業戦略との関連性を高めるとともに、適時振り返りや課題認識を行った。

(J2) 事務局

- 1 新正会員を対象に、アクチュアリー会の活動・運営に対する理解を高めるとともに、CERA やデータサイエンス等の新しいチャレンジをするきっかけを作ることを目的として、新正会員オリエンテーションを 2025 年 6 月 6 日に実施した。
- 2 本会事務局職員が柔軟で多様な働き方ができるように、在宅勤務を導入している。
- 3 事務局運営の中長期的な安定化を図るため、事務局職員 1 名を採用した。

(J3) 持続的に成長する組織に向けた取り組みの充実

- 1 女性会員間の交流機会創出や活躍機会を増やす取組みの一環として対象の会員間による交流会を 8 月 29 日に開催し、117 名の若手・女性会員が参加した。
- 2 若手会員の活躍機会の創出や会員の参画意欲の向上のため、委員会等委員の公募を実施し、新たに 60 名を委員に選任し、研究態勢を拡充した。

(J4) 透明性を高める観点から、本会の事業活動について開示する情報

自律的ガバナンスの充実、透明性の向上の観点から、令和 6 年度報告より、事業報告等に係る提出書において、以下の事項を開示する。

- 1 海外送金の有無及びそれに関連するリスク軽減策の有無
本会では海外送金を行っているが、すべての業務について海外の送金先の口座の確認を行っており、また、相手側が受領したことを確認できる手段を有している。
- 2 常勤・非常勤別の理事数・監事数、理事・監事等ごとの報酬等の総額
本会の常勤・非常勤別の理事数・監事数、支払っている報酬の額は以下の通りである。

	理事又は監事の数		報酬(円)
		うち常勤	
理事	25 人	0 人	111,110 円
監事	4 人	0 人	133,332 円